

琉球大学学術リポジトリ

追悼の辞 一樋口一彦教授追悼号の刊行にあたって

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学人文社会学部・琉球大学大学院法務研究科 公開日: 2022-11-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高田, 清恵 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002019547

追悼の辞 樋口一彦教授追悼号の刊行にあたって一

樋口一彦先生は、令和 3 年 7 月、享年 61 才で永眠されました。平成 4 年に琉球大学法文学部に着任されて以来、長きにわたって教育、研究、学内行政、地域活動等にご貢献されてきた樋口先生に対する追悼の意と、生前のご活躍およびご貢献に対する深い感謝の意を表すため、琉大法学 106 号を樋口一彦先生の追悼号として刊行することに致しました。

先生は、昭和 34 年に兵庫県でお生まれになり、金沢大学法文学部を卒業後、関西大学大学院法学研究科博士前期課程、同後期課程を経て、平成 4 年 10 月に琉球大学法文学部に専任講師として着任されました。その後、平成 8 年 4 月に同学部助教授となり、平成 13 年 10 月には法文学部教授に昇任されました。平成 30 年の学部改組により、同年 4 月からは人文社会学部教授となり、実に 28 年余りの長きにわたって琉球大学において研究、教育、学内行政に貢献されました。

教育の面では、ご専門である国際法の教育を中心に、全学共通の共通教育においては憲法概論、学部の専門教育としては基礎国際法、展開国際法、応用国際法、講義国際法、演習国際法などの数多くの国際法関連科目をご担当されました。また、基礎演習や法学演習などの演習科目では、法学や国際法の分野にとどまらず、個々の学生の興味・関心にそくしたテーマを取り入れたゼミを行い、一人ひとりの学生に向き合って、丁寧かつ楽しそうに教育されていた様子が思い起こされます。大学院においても国際法関連科目を担当されるとともに、教育研究指導教員として社会人を含む大学院生の研究指導にご尽力されました。これらの教育を通じて、学界、産業界、公務員等の幅広い分野で活躍する人材を多く輩出されて来られました。

研究面においては、樋口先生は国際法がご専門であり、とりわけ国際人道法の分野で多くの優れた研究業績を残されました。専門外の私から、先生のご研究について申し上げられる立場ではありませんが、国際法はもともと国家間の法として成立し、その一分野である国際人道法も国家間の武力紛争に適用される法であると認識されてきたところ、第二次世界大戦後の国際人権法の発展に伴い、国際人道法においても内戦に適用される法の生成展開がみられるように

なりました。樋口先生は、こうした法現象に着目して国際人道法についての研究を遂行され、内戦に適用される法の構造を明らかにし、その望ましい発展方向を探ることを目指して研究を進展させて来られました（琉大法学 51 号・58 号・59 号・62 号・64 号・65 号・67 号・69 号・71 号・73 号所収論文など）。そして、ご研究の成果を『内戦に適用される国際人道法』としてまとめられ、平成 19 年 9 月に関西大学から博士号を授与されています。

直近の 10 年間には、国際人道法の幅広い分野を包括的に対象として、その歴史、法源、適用の基本問題、戦闘員の資格等にわたる研究に着手され、国際人道法の基礎概念、適法範囲や方法にかかわる事項、これらの体系における位置づけなどを整理する作業に力を注いでおられました。これらの一連のご研究は、国際人道法の法原理と体系化のための研究といえるもので（琉大法学 86 号～91 号・93 号・102 号所収論文）、まさに先生の集大成となる研究であったと思われます。樋口先生の一連のご研究は、国際人道法を研究する後進の研究者にとって必読の文献として高く評価されており、この分野において学会を牽引し、学問の発展に大きく貢献をされたと言えるでしょう。

大学行政の面でも、樋口先生はその人望と信頼の厚さによって、副学部長、3 期に及ぶ学科長、各種の学部委員会の委員長などの要職を歴任され、琉球大学や法文学部、人文社会学部の発展にご尽力されました。平成 30 年度の学部改組にあたって、その準備や改組後の執行体制の確立などにおいて重要な職責を果たされました。

特に思い出されるのは、これまでの度重なる学部・学科改組によって法学専攻課程（現・法学プログラム）の教育カリキュラムも数度にわたり改編されてきましたが、樋口先生は、そうしたカリキュラムの改編や教育改善の面においても、法学専攻・講座の中心となってご尽力くださったことです。法学教育における組織的な教育改善のため、FD 活動を積極的にけん引してくださったのも樋口先生でした。平成 16 年に琉球大学に法科大学院が設置され、それに伴い、学部の法学教員が従来の 20 数名から 8 名（現 7 名）に急減し、学部の法学教育に苦心を強いられるに至った際も、樋口先生は、限られた現員でも効果的、効率的に法学教育を提供できるようにと、私たち同僚教員のために心を砕いてカリキュラムを提案し、改組を進めてくださいました。当時の様子を、改めて感謝の思いとともに思い出します。

社会活動の面でも、西原町の情報公開及び個人情報保護審査会委員を務められるなど、高い識見と豊富な経験を生かして地域社会に貢献されました。

人柄が優しく、誠実で、いつも同僚や後輩教員に気を配ってくださった樋口先生に、私たち法学講座教員は、どれだけ助けていただき、頼りにしていたことか、短い文面ではとても書き尽くせません。学内等でお目にかかった際には、いつも片手を挙げ、気さくな笑顔で声を掛けてくださった様子が今も目にうかびます。

樋口先生の余りにも早すぎのご逝去に、教員一同、いまでも受入れ難い思いでおります。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

2022年9月

法学講座主任 高田清恵